

プロゴルフトーナメント 開催時のコース管理

1. はじめに

当社には、酪農畜産事業・畑作園芸事業の他に環境保全や環境緑化に取り組んでいる環境緑化事業があります。芝生・緑化用種子・資材を取り扱っていますが、その販売先の1つにゴルフ場があります。

中にはプロゴルフトーナメントを開催するゴルフ場もあります。ここではトーナメント開催時のコース管理について、一般にはあまり知られていないメンテナンスのポイントについてご紹介します。

2. プロゴルフトーナメントのコースセッティング

日本でも毎年様々なコースでトーナメントが開催され、ゴルフコースを舞台に選手が技を競いますが、その舞台にはひとつとして同じホールがありません。しかもコースの芝や樹木は生き物ですから、試合に向けてコースをどのようにセッティングするかは舞台演出そのものです。トーナメント開催の1年以上も前から男子ツアーJGTO（日本ゴルフツアー機構）、女子ツアーLPGA（日本女子プロゴルフ協会）のコースセッティング担当者とコース管

理責任者であるグリーンキーパーやコース管理者との間でトーナメント開催に向けた作業手順を打合せし、試合用のセッティングに仕上げていきます。トーナメント開催時は、通常営業とは比べものにならない厳しいコースセッティングとなります。試合用のセッティングとは、選手の能力を最大限に引き出すため「良いショット」と「悪いショット」の差をはっきりさせることです。簡単に言えばラフを伸ばしたり、フェアウエーの幅を狭くしたり、グリーンは硬く締めて均一な面に仕上げます。フェアウエーは芝の種類によりますが9mm前後から14mm程度、ラフは40～120mmと範囲は広く、セミラフに入ると1/4打、ラフは1/2打のペナルティーとなるように設定します。グリーンは2.7～3.7mm前後に短く刈り揃えてローラーを掛け、適度なコンパクション（硬さ）を持たせたグリーンに仕上げます。ボールの転がりを調査するステインプメーターの測定値が女子で9～11フィート、男子で10～12フィートとなっていますが、近年はどんどん早くなる傾向にあります。

芝刈機械の往復で芝草が少し寝るので、ゼブラカットと呼ばれる縞模様が付きます。近年のメ



ブロワーによる芝刈り前の露払い作業（夜明けと共に作業開始）



フェアウェイの刈込み

ジャー大会では、打球の転がりの公平性やクラブの抜けに対し、同一方向に刈る手法を採用しているコースもあります。

ただし、トーナメント開催中の時間内にこの作業を行うには12台前後の機械とオペレーターが必要となり、近隣や系列のコース、関連業者の協力が不可欠となります。

プロトーナメントのグリーンはボールの転がりを極端に速くするように仕上げます。何か月も前からグリーン全面に砂を薄く散布する事を繰り返しながら、転圧ローラーをかける事で凸凹を無くし、固く締まったグリーン面に仕上げます。グリーンスピードはステインプメーターで計測し、女子の大会で9～11フィート、男子の大会では10～12フィートが目安です。一般的に通常営業では8～9フィートで速



グリーン用のモアー



グリーンの刈込



グリーンへの転圧ローラー作業



竹ぼうきでラインを付けるようにバンカーの整備



ステンプメーターによる転がり計測



機械均しによるバンカーの整備

いグリーンとされています。

ちなみに、1フィート=30.48cm、12フィートであれば約366cmも転がる事になります。

バンカーの整備もトーナメントではとても重要な位置づけです。通常機械均しの後に竹ぼうきでグリーン方向にラインが付くように掃き、エッジラインも1ヵ月前までにはくっきりと判るように整備をします。

3. おわりに

トーナメント成功の裏には、表舞台を支えるグリーンキーパーや管理スタッフの方々の、見えない努力があります。早朝から夜遅くまでの作業、並々な努力と緊張の日々があったことは容易に推察されます。あらためて関係者の方々に敬意を表したいと思います。当社は芝生の優良品種開発と導入に関わりながら、その材料の特性を見出してきました。蓄積したノウハウの応用により、芝生管理作業に少しでもお役に立てる様、今後もより良い芝生・緑化用優良種子や資材の提供、情報の発信に取り組んでいきます。